

毎日新聞社とうきょう支局で働きました

～就業体験記～「ファクトを追求する姿に圧倒された」

中央大学経済学部国際経済学科3年 今井 秀彰

暑さに負けず赤々と
キバナコスモス見ごろ
中央区の浜離宮恩賜庭園。キバナコスモス見ごろ。通常のコスモスが見ごろを迎え、訪れたい人の目を惹きつけている写真。キバナコスモスは、

8月27日から9月7日まで、毎日新聞社とうきょう支局（東京・竹橋）で2週間のインターンシップ（就業体験）の機会を得た。身近にあった新聞なのに、大発見をした高揚感がある。新聞づくりの現場で見た貴重な経験を3つのテーマに分けてレポートする。



れた。「毎日RT」とは新しい媒体で過去24時間に毎日新聞のニュース・情報サイト「毎日.jp」で読まれた記事を取り上げ、ツイッターによるコメントも掲載する、毎日新聞社がネットユーザーとリアルタイムのコミュニケーションを目指す。

編集会議では、どの記事をどのページに入れるか、記事を置く配置に違和感はないか、各ページに写真をバランスよく入れられるかなどRT編集部の仕事を目の当たりにした。

記事の割り振りが終わったら、それぞれが担当する記事の編集に取り掛かる。ゲラ（試し刷り）が上がってくると、見出しの表記や誤植のチェックを行う。

この作業がすごい。赤ペンを持って、記事を一行ずつ一字一句、線を引しながら細かく確認する。二度も三度も行う。もう十分したと思ったが、まだ続ける。その姿を見て、新聞がメディアにおいて高い信頼を得ている理由が少しわかった気がした。



署名が入った毎日新聞記事

新聞写真の撮り方



3日目、中央区の浜離宮恩賜庭園へ支局長に連れられて取材に行った。見ごろを迎えたキバナコスモスの写真撮影。記事も書く予定だ。

写真の撮り方の基本的な説明は受けたが、いざ現場に行くと、緊張してなかなかシャッターを切れない。何万本も咲き乱れる花々をどの角度から撮ればよいのか。見物客を写真に収めてもよいのか。庭園の近くには高層ビル群が広がる。背景はどこまで含めればよいのかなど、かなり頭を使った。

取材後、支局長の点検にはハッとさせられた。私の撮影写真（右ページ）に

は観光客が入っていなかった。紙面化された支局長撮影の写真とは大違いだ。人がいることで花がいっそう映えるのだ。

記事については、なぜ今、浜離宮を取り上げるのかというニュース感覚の欠如を指摘された。都心にある花園の浜離宮では連日の猛暑でも、涼しげに咲くキバナコスモスが楽しめる。猛暑のなかの一服の清涼剤とでもいうのだろうか、人知れず咲くコスモスにも読者に伝えるニュースがちゃんとある。

僕が編集会議に出てもいいの!?



「毎日RT」の編集会議に出席させてもらった。紙面づくりの現場見学も許さ

新聞社の新しい試み



新聞社も時代に合うように新しい取り組みをしている。上記の「毎日RT」に加え、毎日新聞紙面に専用アプリを起

動してスマートフォンをかざすと動画が再生できる「毎日AR」機能、タブレット端末やスマートフォンに特化したニュースメディア「TAP-i」など、インターネット時代における新聞社の新たな取り組みを垣間見ることができた。

2週間のインターンシップを通して感じたのは新聞の大発見だ。子供のころから身近にあったのに、新聞のことを何も知らなかった。

記者が得た一つ一つの事実(ファクト)の積み重ねによって記事ができる、

それが集まって新聞が出来あがる。当たり前のように思われるかもしれないが、取材から編集まで何度も事実を追求する記者の姿を見た。普段何気なく読んでいた新聞の裏側で、汗を流す幾多の努力があることを知った。

インターンシップ・ダイアリー

8月27日(月)

野球の杉並区立小学校PTA協議会秋季大会、陸上競技の第55回都私立中学高校選手権大会の試合結果をパソコンのワード(word)で作成。その後、誤植がないか原本との読み合わせを行う。

同日

全農栃木の方々が特産のフルーツを持って来社。対応する支局長の取材を見学した。話のなかで品種や収穫高を何度も確認していた。

8月28日(火)

前日作成した試合結果記事が、実際どのように紙面掲載されたか提出した原稿と比較する。

社内見学(インターン先のとうきょう支局は東京本社にある)。

毎週金曜日に地域面に掲載される展覧会などの記事作成。都内で開かれる展覧会の告知記事だ。支局には各種団体などから掲載を希望する資料が多数送付されていて、その中から掲載するものを選ぶ。次は企画担当者に電話取材。内容の確認と事前資料に変更点があるかなどを聞く。ここでも新聞は一つ一つのファクトの積み重ねでできていることを実感する。

8月29日(水)

支局長が、前日われわれが作成した展覧会記事をチェックする。その後修正をし、読み合わせを行い誤植がないか確認した。

中央区にある浜離宮恩賜庭園へ取材に行く。見ごろを迎えているキバナコスモスの写真撮影と記事作成。

8月30日(木)

前日の取材を基に記事を作成し、掲載に値する写真を選択。(講評は翌週)

「毎日RT」編集部で編集会議、紙面作成までの過程を見学。見出しの付け方や記事の価値判断など生の現場を見る。

8月31日(金)

「第31回銀座震災訓練」の取材をする。参加者への直接取材も試みる。相手の氏名・年齢(生年月日)・職業を聞かねばならず苦戦する。だが、参加者の意見を聞くこと、その意見を書くことで記事に厚みが増した。

東京都庁で石原知事の定例会見を取材。一つでも多くの情報を得ようとする記者の努力を感じた。その後、都庁担当記者からレクチャーを受ける。

9月3日(月)

先週取材したキバナコスモスの記事について、支局長から講評をいただく。「なぜその記事が今日の紙面に掲載されるのか」という視点を欠いていたことを痛感する。その後修正し、確認作業の読み合わせを行う。

翌日の取材準備のため、千代田区図書館にて情報収集。検閲を経ていないネットの情報に頼らずに、書籍から必要な情報を得る。

9月4日(火)

台東区浅草にあるホテルで、「平成24年度たいとう観光大使任命式」を取材。前日調べたのは、大使に任命された俳優の伊東四朗さん、歌手の野口五郎さんら台東区にゆかりのある著名人。式の取材中、写真を撮ることに抵抗があった。インターン生であるという思いが足枷と



筆者が撮影したコスモス

なり、堂々とした姿勢で臨むことができなかった。その後、記者に話を聞く。

9月5日(水)

高校ラグビー都大会のトーナメント表の資料と原稿の読み合わせ。

2度目の社内見学。竹橋の東京本社は広い。

展覧会の電話取材。前回の反省点を活かし、同じミスをしたくないよう心掛ける。

9月6日(木)

昨日に引き続き展覧会の電話取材を行う。取材によって資料に正確性をもたせようとして原稿作成。限られた紙面で端的に、わかりやすく書くことが求められる。

厚生労働省記者クラブで、日本医療労働組合連合会(医労連)を取材。看護師の労働環境の改善を目指して全国キャラバンをするという内容。その後、厚生労働省担当記者に話を聞く。伝えなければならないことは山ほどあるが、紙面には限りがある。取捨選択する記者の仕事の難しさを知った。

9月7日(金)

「墨田区危機管理ベース」の内覧会を取材。その後、区の担当者とともに東京スカイツリーに併設する商業施設2階部分にある防災行政無線室へ移動。ツリーの260メートル付近に設置されている区の防災用カメラの映像を確認。内覧会終了後、再び墨田区役所に戻り、区長を囲んでの記者懇談会に出席。区長から区政を直接聞く貴重な機会だった。これで全日程が終了。

アツという間のインターンシップだった。

【略歴】埼玉県立伊奈学園総合高卒。サッカー・フットサル、水泳が好きで、趣味は映画鑑賞(洋画)。

アカデミック・インターンシップ

インターンシップとは、在学中に専攻分野や将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度のことです。中央大学では正規授業科目として単位認定される「アカデミック・インターンシップ」を導入しています。また2010年からは、経済・商・総合政策の3学部共通科目として「学部共通インターンシップ」が開講されています。(中央大学 CONCEPT2012)